

こんにちは 2017年11月16日No.156

ちかざわ美樹です

日本共産党 市議会議員活動報告



☎&fax 042-582-1870

☆自宅:日野市万願寺 6-35-9

カサベルデ 201

☆ちかざわ事務所(三沢中学校のそば)日野市三沢 1-13-5

いつでも、どんなことでもお電話下さい 携帯はこちら→090-9313-1192
なんでもご相談下さい メールアドレスはこちら→chikamiki222@gmail.com

2018年2月、5人の日本共産党市議団の誕生を!



写真左より中野昭人元市議、ちかざわ美樹、山添拓参院議員、岡田じゅん子さん(新人)、清水登志子市議、大高哲史市議

各地域の住民のみなさんの切実な声を議会へ届けるために5人全員を市議会へ

来年 2018 年 2 月 1 8 日、日野市議会議員選挙が行われます。日本共産党日野市議団は、現在の 3 人(1 人が都議選立候補のために 5 月に辞職、1 人が 10 月に無会派になったため)から、5 人の市議団をめざします。

年金が引き下げられ、働く人たちの実質賃金の下がるもとで市には市民の暮らしをささえる施策を行うことを最優先にすることが求められます。

ところが日野市は政府が求める方向での「第五次行革」で、国保税や保育料、市の施設付帯の駐車場をはじめ、公共施設や公共サービスの利用料等の負担増を市民に押しつけようとしています。これではますます貧困や暮らしの不安が拡大するばかりです。自治体の本来の役目を果たす方向への転換が必要です。

このたび上記 5 人がそれぞれの地域のみなさんの切実な声を市政に生かすために全力を尽くすことを決意いたしました。ご支援をどうかよろしくおねがいいたします。

12 月 17 日(日)午後 ちかざわ美樹地域演説会を開催いたします。詳細は後日

ごみ広域化計画強行は許されません。白紙にして住民と一からの見直しを!

【日本共産党の無料法律相談】 第 1. 2. 3 木曜日予約制です

第 1. 3 木曜日 18:00~20:00 第 2 木曜日 13:00~15:00



ヒバクシャ国際署名をすすめましょう



11・21(火)19時～生活保健センターで、署名推進の相談会が開催されます

《ヒロシマ・ナガサキの被爆者が訴える核兵器廃絶国際署名アピール》 この賛同署名は国連に届けます

人類は今、破壊への道を進むのか、命輝く青い地球を目指すのか岐路に立たされています。1945年8月6日と9日、米軍が投下した2発の原子爆弾は、一瞬に広島・長崎を壊滅させ、数十万の人びとを無差別に殺傷しました。真っ黒に焦げ炭になった屍、ずるむけのからだ、無言で歩きつづける人びとの列。生き地獄そのものでした。生きのびた人も、次から次と倒れていきました。70年が過ぎた今も後障害にさいなまれ、子や孫への不安のなか、私たちは生きぬいてきました。もうこんなことは、たくさんです。

沈黙を強いられていた被爆者が、被爆から11年後の1956年8月に長崎に集まり、日本原水爆被害者団体協議会(日本被団協)を結成しました。そこで「自らを救い、私たちの体験を通して人類の危機を救おう」と誓い、世界に向けて「ふたたび被爆者をつくるな」と訴えつづけてきました。被爆者の心からの叫びです。

しかし、地球上では今なお戦乱や紛争が絶えず、罪のない人びとが命を奪われています。核兵器を脅迫に使ったり、新たな核兵器を開発する動きもあります。現存する1万数千発の核兵器の破壊力は、広島・長崎の2発の原爆の数万倍にもおよびます。核兵器は、人類はもとより地球上に存在するすべての生命を断ち切り、環境を破壊し、地球を死の星にする悪魔の兵器です。人類は、生物兵器・化学兵器について、使用・開発・生産・保有を条約、議定書などで禁じてきました。それらをはるかに上回る破壊力をもつ核兵器を禁じることに何のためらいが必要でしょうか。被爆者は、核兵器を禁止し廃絶する条約を結ぶことを、すべての国に求めます。

平均年齢80歳を超えた被爆者は、後世の人びとが生き地獄を体験しないように、生きている間に何としても核兵器のない世界を実現したいと切望しています。あなたの家族、すべての人びとを絶対に被爆者にしてはなりません。あなたの署名が、核兵器廃絶を求める何億という世界の世論となって、国際政治を動かし、命輝く青い地球を未来に残すと確信します。あなたの署名を心から訴えます。

日本共産党発行



日刊●月 3497円
日曜版●月 823円



東京民報は東京がよくわかる週刊新聞、月額400円、躍進した日本共産党都議団の情報も満載です。見本紙をご希望の方はすぐお届けします、ご遠慮なくご連絡下さい。しんぶん赤旗といっしょに配達・集金をします。ぜひ、ご購入を！

いのちがいらばん

(自己紹介のつづき) 2008年厳寒の大晦日、リーマンショックで仕事と住居を同時に失った人たちの命をつなぐために日比谷公園に「年越し派遣村」が設置されました。報道を観てじっとしてられずにボランティアに参加しました。労働組合で知り合った女性たちが公園の水道の冷たい水で大量の米を研いでいました。夕食を受け取るために並んだ人たちの列のあまりの長さに思わず涙がにじんできました。仕事、労働組合、地域での市民運動、自分に出来ることを可能な限りしているつもりでしたが、派遣村の経験以降、その日に寝る場所がある限り、自分に出来ることはさらに臆せず挑戦しよう、と考えました。



ちかざわ美樹